

阿彌陀經和訓圖會

中



阿彌陀經和訓圖會卷之中

又舍利弗彼佛國常作天樂

又舍利弗と云又更く説く所の彼佛國土常作天樂と極樂を

歌舞の菩薩とて二時中音樂を奏して諸人の心を樂しめ善心

成生ぜしむなり樂の字ハ樂とも樂とも訓樂と續とん音

樂舞樂の更かりて樂ハ宮高角徵羽の五音然調を是と奏

と唯人の耳目然悦なまを為るは五音乃清濁小依る世の活

乱を察せん為る作王殺られり宮ハ君高を臣角ハ民徵を木

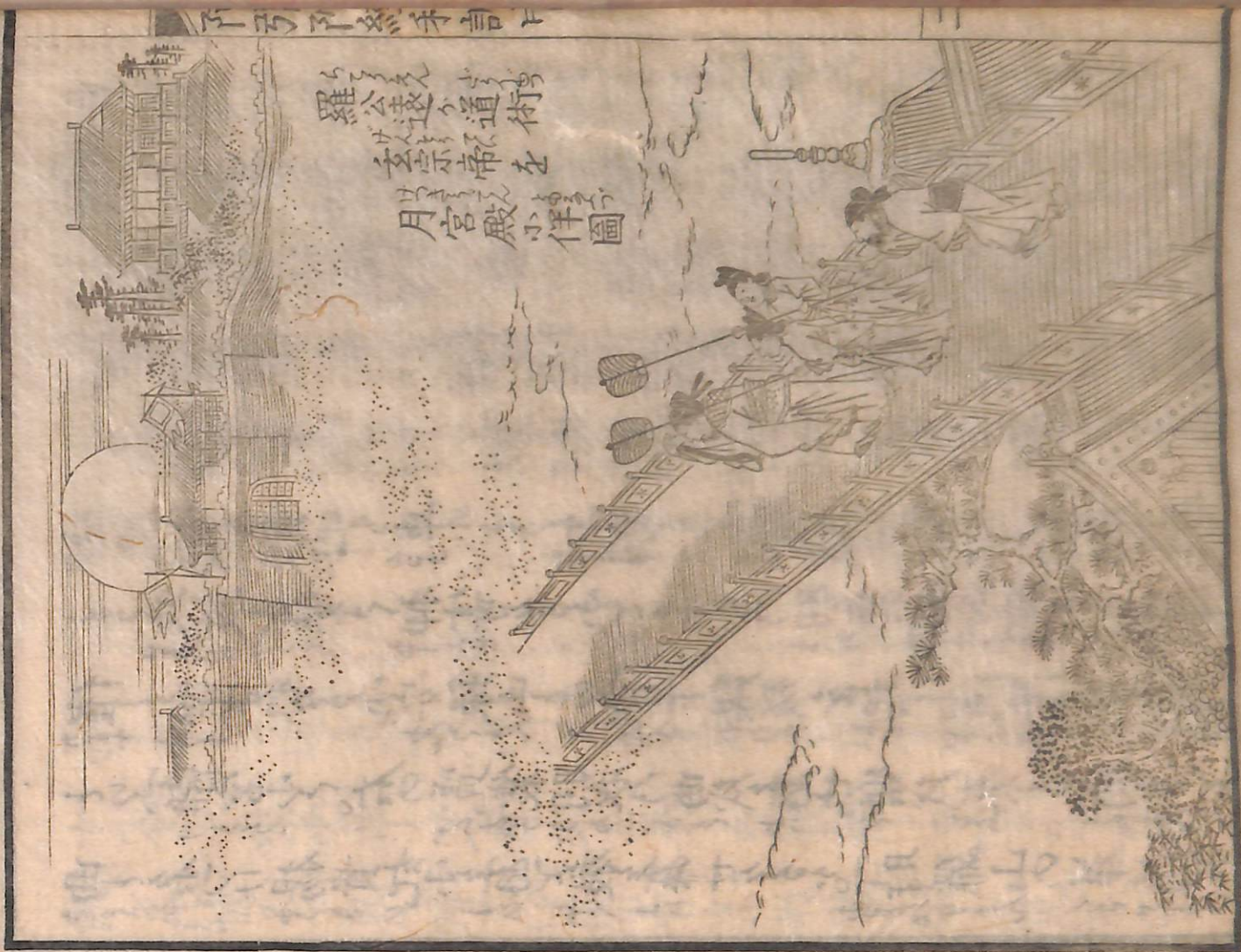
羽を万民小當ともされ宮の音乱る時を帝王の行以正し

ざる又と帝王乃身小災ある兆あり商の音乱る時を度下小



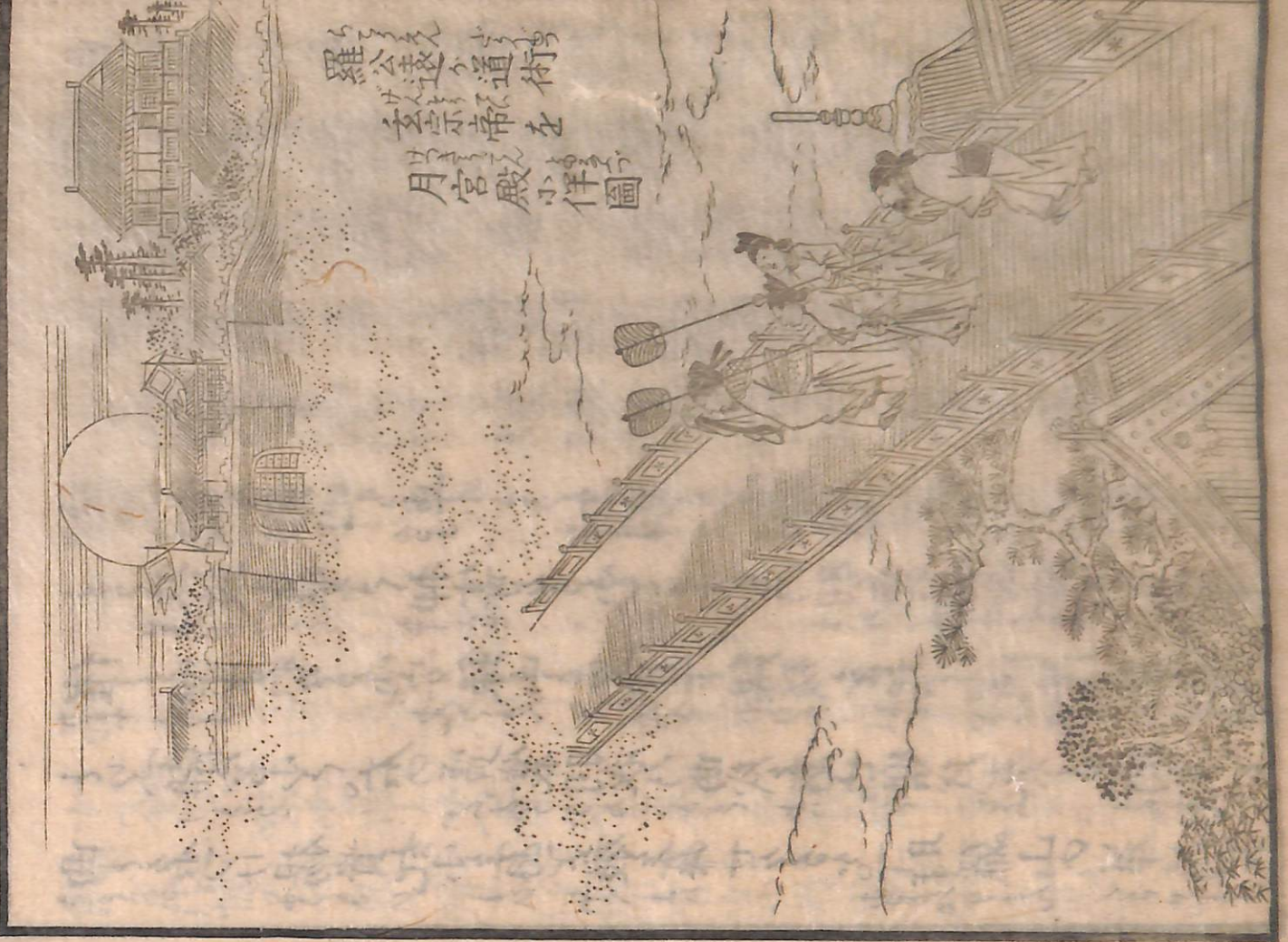
叛く者あるは禍有の兆なり用音乱ると民不安の
兆徴音乱ると草木亦あ五穀作ら兆と羽音乱
ると天は人民危る有の兆とを樂と國を治るの器
なり我も世下之人の智あるは成行音樂をとて世の治
亂を知人希なく專ら酒宴遊丹の技とを行や唐乃素
皇帝雅遠とい通術の者成て一なる雅遠月十五夜の
隈乃月亦向杖を採る虚空亦投上る其杖亦ち白銀乃
橋となる公遠玉亦成て其橋を昇ると同宮殿亦到る天帝天
女令と紫雲曲とい舞樂を奏るの餐應一なる玉亦其樂乃
綱を記憶く下界（唄）伶倫の官女亦教也其樂を覺裳羽衣の

曲と名つけ揚貴妃亦教舞舞せざるが時礪山の華清宮
とい離宮あり右の霓裳羽衣の曲成て樂成奏しく酒宴と
催樂まれり安録山とい下謀叛を起し漁陽とい所
より攻鼓を擧げ押寄るも乃羽衣の妙曲破ると周障
發り帝も貴妃も車より蜀とい國落れり馬嵬原
とい所あり高力士とい者揚貴妃を縊殺し是より唐の世大亂
亂ると是の如く殷の紂も北里の曲とい樂を作しより政
亂れ周の平王秋水乃樂より徳表隨乃湯帝も新曲の樂と
作しより遂に國家を亡し身も殺せり往古の樂とい天下を治
めり亦末世の樂とい國家を亡しと後依り極樂の音樂成り



阿彌陀如來大慈大悲の佛心より建せし町の音楽を
 且吹風も長和と微妙の音なる。人々も鳥獸虫けも
 是れ皆之歡喜の善心を生ぜしむる也。誠難有御事
 今も大寺乃大法事なるも音楽成奏と極樂の体相を

黄金為地晝夜六時而雨曼陀羅華
 極樂をを極黄金を以て地不布也黄金為地と説き其
 黄金の名成阿浮檀華と号す南洲とい國の北岸不阿浮檀樹と
 以て微妙の大樹あり其下五百流の大河あり彼阿浮檀樹の葉と
 甚大にして熟し河に落ると菓の汁川中乃石を濡れ悉く黄



羅公遠らこうえん道術どうじゆ
 玄宗帝げんそうていを
 月宮殿つきみやう小伴圖せうばんず

阿弥陀如来大慈大悲の佛心より建てる所の町の音楽は
 吹風も是れ和して微妙の音なる人々も鳥獸虫けも
 是れ皆て歡喜の善心を生ぜばといふまじく誠難有御事
 今も大寺乃大法事小なるも音楽成奏とて極樂の体相を

黄金為地晝夜六時而雨曼陀羅華

極樂をなす曼陀羅華を以て地も布も黄金為地と説き其
 黄金の名は阿浮檀栴荼と号す南洲といふ國の北岸に阿浮檀
 微妙の大樹あり其下五百流の大河あり彼阿浮檀樹の葉を
 甚大にして熟し河に落ると菓の汁川中乃石を濡れ悉く黄

金とかなる是は阿彌陀檀金といふ。經小説の。備昼夜六時とを
 晨朝日中日没初夜後夜中夜是なり。唐古盧山の惠遠禪師
 白蓮社といふ菴を結び般若雲臺精舎小阿彌陀如来の像と
 安置し。木蓮華と造り。水と志りけり。昼夜六時を量り念佛行
 法を勤られしなり。今の六時礼讃と惠遠禪師より如きなりとを
 而兩曼陀羅華と。而も助字なり。兩ハあめり。以と刻く妙元の降を
 以曼陀羅華二名天妙華ともり。五色なり。有又白色なり。も
 有とど。極樂ハ昼夜六時ハ此華と雨となり。又曼殊沙華といふ
 華とも雨とあり。曼陀羅華と日本ハ色々れども曼殊沙華ハ有
 一名鬼短檠といふ極樂乃曼殊沙華も是なり。や否や。これハとも

其國衆生常以清且各以衣祴盛衆妙華供養他方十
 萬億佛

其國衆生ハ極樂ハ生きたる衆の人なり。常ハ不断といふ。如く以清且
 とハ清且と日の上ハ出る時あり。夜の明始なり。衣祴ハ華ハ盛
 かり。日の出る頃と以て各衣祴小天人雨と。そのの曼陀羅華と盛
 他方と。極樂の外なる東方北方南方等の淨土飛行十萬億佛
 とて數限なれば佛ハ供養し。ももると。十萬億ハ限ハあまを。每數乃佛
 とり義なり。供養ハ佛ハ進め。ももるなり。但供養ハ二種あり。ハ法
 供養。是と諸の法を修て佛ハ供養とも。更わく。眞の供養と

二不財供養是財富及以香花を備へ供養する今富人
 佛及び僧尼小銀綯帛等以て供養する財供養亦善根之
 とも也其心眞実佛僧を皈依せざるを名聞の爲供養する
 と云ふ善根の如く昔佛在世の時修羅絶長者といふ人家
 富く多數の財富を貯へ三法を皈依し例年臘月八日毎小秋と
 して衆の羅漢を請ひて供養する事怠らざる此長者年九十
 臨終乃て其子比羅絶といふ者遺言し我死する如き羅漢連
 小供養する事汝廢する事勿し汝に遺言して往せし其子
 父の遺言を守り毎年臘月八日小秋師弟を請ひて供養する小
 過去の因縁亦漸く家貧くたり或年臘月八日亦近くたるに

錢財乏く供養する能はず然亦小秋尊比羅絶を貧くあるに
 因食用連を使ひて當年も八日小供養せざるやと問せし比
 羅絶答くは父も亦八日小供養せざる問例ごとく日中亦小秋
 一を廢しと言ひ同連を歸し其後父比羅絶其妻汝招き涙
 交流して曰父の遺言もた去年た如き師弟を供養せしが
 汝も知く年々家貧くたり今年も供養する能はず後年
 とも供養を廢し何先亡父の不孝たるは父より我如きの
 使僧小相要を供養中廢しと答へ歸せし汝何年富貴の乃
 方奉公身を賣く其錢財を我を得るや然其財をりて
 當年の供養を當人頼る其妻諾て曰是甚く安んず事

如來の御説法も此世を仮の宿ありと説くは後世にて永く添進
 せふん三法の為小身と賣く供養と管人の望む所なりと
 少も憂る色なく直小富貴なる人の家小行子細を告ぐ黄金百
 兩小身と賣其價を夫とす比羅陀涙を流して悦び夫妻あぬ
 別をあり右の身價代以て供養の品代調其日分待々多行あり
 臘月八日小もあやうく釈迦如來八千二百五十人の法牙代從(比羅陀
 が家小到り供用の施物を受用して精舎飯多比羅陀小満
 足其羽目亦る物あり故庫の内行々多小昨鳥まもり前多を
 も米一俵も亦る故庫金銀米穀充滿して富有の昔も増より
 比羅陀夢と説く又サへら此故庫小斯れと金銀米穀の有るは



比羅陀夫婦 貧をふむ図

ちうなり若他人乃入る小や妻小
 是然とて官より料を受んども
 知るは先釈多小同もんを
 即時小祇園精舎赴た右の由を
 如來小尋なりたれ如來微笑
 一の善哉々々善田才子你孝
 心厚く又の遺言を守り具佛道
 小信心深し其善心代賞し夫り
 汝小賜とてその七財なり悼るる
 なく用ひく身と賣く妻れも購

返さず。これ財と信戒慚愧聞施惠是なり。此天財を得る
 故に餘生に亦及まじ。子と孫とを貧乏に偈て親せむ。
 多に比維絶感涙を流し。佛法の不可思議功德を謝し。なり
 益信心堅固の道心決定し。妻妾も購返し。子孫永く大富貴と
 保し。賢愚因を誠の信心故に。三宝を供養し。其
 功德廣大なる信を尊し。仰ふ。

即食時還到本國飯食經行

即食時と即食時を以て。更なる食時と午の時と。往昔
 如來法惠菩薩親曰。且時諸天の食時なり。午時を法に食
 時なり。晡時と畜生の食時なり。夜時と鬼神の食時なり。故に三

世の諸佛は午の時故に法の食時と。且故過て午趣む。いと
 上食し。故に日午を過る。非時食と号し。毗羅三昧極樂
 の衆生。皆且他方飛行して。十方億佛の花を供養し。午の時又
 本の極樂國還ると。還到本國と。本國還到との義なり。飯食經
 行と。飯を食し。經を誦して。佛殿の如く。行む。更なる。是食と。名
 し。血脉を養ひ。氣を順ふ。事の活法也。磬を紅夷人の食後坐中
 徘徊する。如く。日本の人。食を終む。静し。運ひ。食を食すと
 する。然るに食物胸膈に滯り。疾となり。謂但極樂の衆生を
 飯を炊き。食を食し。此と食事せん。思ふ。忽ち七宝の無銀百
 味。乃飲食を成陳す。其前不現と。然るも真の食と。者なり。唯其色

を見香を嗅む。自然小腹満足今を
 飽すと思む。苦血諸味自ら化去と云
 取意 然を經行せども食物淨る
 抄鏡 猶經行するハ正体の智
 小あざれども。乃病と生ぜざらん為なり。因小曰經行
 を益。百姓の真理と用れ。着相我所
 六經六機の經あつて。幾筋も行回
 舍利弗極樂國土成就如是
 功德莊嚴



右前段と同一文小註解も前ふけ

復次舍利弗彼國常有種々奇妙雜色之鳥

復次とハ復次ふと云ふ。又舍利弗小鏡もふ也。彼國常有種々奇
 妙雜色之鳥とハ彼國ハ常小種々奇妙色哉雜々鳥々有とあり

白鵠孔雀鸚鵡舍利迦陵頻伽共命之鳥

白鵠とハ白丸鵠なり。但一鵠ハ二種あり。只鵠と云く呼ぶ小鳥あり

和名六鵠と云飛歩と最疾。故小射者是鳥と的と射を

習射場的的も此鳥を描く同當と中庸小失諸正鵠と云

も鵠の多なり。又白鵠と云鵠なり。鵠と靈禽と生くより千

六百年あり。黒丸漆のくく白丸を雪のくく印を産む胎生と云

されど同出度鳥たれど万国とも是れ重んずる。孔雀一名越鳥とも。南客とも。南國小産する故なり。詩小。越鳥巢南枝胡馬嘶北風と賦せり。雄ハ羽毛金翠の色麗しく尾長く玉乃如き紋連り。人の眼と怡む雌々尾短く毛色も劣らる。○鸚鵡ハ能言語鳥なり其色赤紫白又五色と兼も有。礼記小。鸚鵡能言不離飛鳥とあり。唐の開元年中小嶺南といふ所より白鸚鵡を献じ。玄宗帝大に是を愛し。雪衣娘と名を呼詩と教誦せしむる。鸚鵡三四遍の善覚。揚貴妃宮女と双六を拍碁然困小貴妃まゝ小負んをとる時ハ玄宗帝傍小在り。雪衣娘と呼ぶ。又小件の鸚鵡飛来り。盤の上小下り石と踏乱して勝負と云ふ。

志め。或ハ對多乃者の手成。其伶利と人小勝と云ふ。帝も揚貴妃も益是れ寵愛と。然小貴妃或夜の夢小雪衣娘が雁鳥小搏とて死すと見。夢覚ぬ是れ帝小語タレ。玄宗帝大に其夢を忘心の貴妃小命して雪衣娘小般養心経を教。め。雪衣娘程なく心経を覚。是を續誦と。帝亦之歡喜あり。今も俗が禍と穰小足ると宜む。鸚鵡頻小喜ふ体と云ふ。其後貴妃雪衣娘と竈より出。餅をおへ。竈愛と在る小忽地荒雁鳥飛来り。件の鸚鵡を捕去。其小投擧手タレ。雪衣娘其死し。帝然ち其貴妃女官声を放。其惜と云ふ。親族を喪る。帝雪衣娘を歎。其乃中。小産しぬ。

鸚鵡塚と号り明皇雜 ○舍利と林語を翻譯するは春眼鳥

とも又を秋鳥踏鳥ともいふ二説一定なきは ○迦陵頻伽是も林語

なり釋をしむ妙音鳥といふ其声緒鳥小勝すも美く妙なり

聞者耳に側心を傾むとの事あり此鳥印の内小あるより声

出ると其声衆鳥小勝ると云 和州當六寺曼陀羅の變相小迦

陵頻伽の図あり頭を美しれ少なき頂小花あり両の翅乃下より

両手生れ指爪も人の如く胸より下毛羽生れ五采あり尾を鳳凰

の如く足小鶏小似たり ○共命之鳥を身二頭の鳥なり林名は耆婆

耆婆迦といふ此鳥も二の頭人の如く同口耳鼻とも具足し骸を

全く鳥なり説あれども長々を畧す

是諸衆鳥晝夜六時出和雅音

是諸衆鳥と右より六種の鳥及び一切の鳥を以り素は極樂國の

鳥只六種小限小をわすれども茲小六種を挙し經文の略なり此外

種々の禽ありと知る 晝夜六時小前段小説がごとく出和雅音と

和、調適の義雅は清素の意小濁なく微妙なる義なり音と

ハ声成文とありて衆声乃の如く幾し揃成音と縉一人の歌を

聲といひ大勢声成合せ歌成音ともは音ともいふなり緒乃鳥が

ひくく響る音が和雅とて和ふ清く妙小安あるとの義あり

其音演暢五根五力七菩提分八聖道分如是等法

其音演暢と六衆鳥の響る音八種くの法と演暢となり演も暢



共命之鳥

ものづると剎をむ○五根ごこんと八はつ信根しんこん二
 小精進根せうしんこん三さん念根ねんこん四し定根ぢやうこん五
 小惠根せうゑこん以上いじやうと五根ごこんとと○五力ごりきと六
 信力しんりき二に精進力しんしんりき三さん念力ねんりき四し
 定力ぢやうりき五ご惠力ゑりき以上いじやうと五力ごりきととあり
 ○七善提しちぜんたいと八はつ擇法善提たくぽうぜんたい二に八
 精進善提しんしんぜんたい三さん喜善提ぎぜんたい四し除善じよぜんたい
 提たい五ご捨善提しよぜんたい六ろく定善提ぢやうぜんたい七しち
 念善提ねんぜんたい以上いじやうとと○八聖道はつしやうだう分ぶんと八
 正見しやうけん二に正思惟しやうしゆい三さん正結しやうけつ四し正

業ぎやう五ご正命しやうめい六ろく正精進しやうしんこん七しち正念しやうねん八はつ正定しやうぢやう以上いじやうとと右五根みぎごこん五力ごりき
 七善提しちぜんたい八はつ聖道しやうだう成就じやうじゆ註解ちゆかいあれども長ながくれを略りやくと極樂ごくらく乃を諸鳥しよちよくの
 音ね右みぎの法ほふ杖じやう演暢ゑんぢやうとなり
 其土衆生そのつちしゆじやう聞を是音このね已を皆乘みなり心念しんねん佛念ぶつねん法念ほふねん僧そう
 其土衆生そのつちしゆじやうと其土そのつちの衆しゆの生じやうと事ことあり極樂ごくらく國くにの人ひとを指さてのふなり
 是音このね已を是音このねと聞を已をとり義ぎなり皆乘みなり心しんを皆乘みなりと事こと念佛念ねんぶつねん
 法念ほふねん僧そうと八はつ衆鳥しゆちよくの妙音めういん小緒せうしゆの法ほふと暢ぢやう杖じやう聞を心しん佛ぶつ法ほふの事こと
 成益信しやういしん佛ぶつを念を法ほふを念を僧そうと念を念をととなり念を念をと剎をむ佛法ぶつぽふぽ
 僧そうの三密さんみつ成念しやうねんなり佛法ぶつぽふぽ僧そうの三さん邪路しやろを出でく正道しやうだう入をく要じやうなり
 舍利弗せりぶつ汝なん勿謂なげ此鳥このちよく實じつ是罪報このつみほう所生しよじやう

舍利弗汝と舎利弗小向汝と指く宣かり勿縲と縲る勿まことのみ
 此鳥實是罪報所生と此極樂の鳥ハ實小是前世の罪の報小依て生
 たる所と縲るふれよ意なり。それ娑婆の禽獸ハ皆前生乃罪業
 乃報小依て生と受る所なり。十惡五逆の罪を犯す者ハ地獄小生
 慳貪嫉妬の者ハ餓鬼道小生。愚癡闇蔽の者ハ畜生道小生を
 受るなり。是を三惡道と縲也。極樂乃衆鳥を左小わると阿彌陀
 如来衆生の為小法の妙音とせ。益信心堅固あり。めんと思食との
 佛心緒乃鳥と化し。五根五力以下の法の音と發すのみなり。されば
 舎利弗小向ハ汝極樂の衆鳥も娑婆の鳥の如く罪の報小因て生むる
 所と縲る勿まよ御事なり

所以者何彼佛國土無三惡趣舎利弗其佛國土尚無三惡
 道之名何況有實是諸衆鳥

所以者何とハ所以者何とハ義彼佛國土無三惡趣とハ彼極樂小
 と三惡趣とて十惡五逆。慳貪嫉妬。愚癡闇蔽。等の罪と造
 者ハなりとかり。舎利弗其佛國土尚無三惡道之名とハ舎利弗小
 亦説多ハ其極樂國土ハ尚三惡道地獄餓鬼畜生たの名も無とかり
 何況有實是諸衆鳥とハ三惡道とハ名とハ何況實是
 衆鳥の有るは中々あらんや。衆鳥とハ多ハ皆阿彌陀如来乃佛心
 乃化と所と宣かり

皆是阿彌陀佛欲令法音宣流變化所作

皆是ハ皆是と前文とと阿弥陀佛欲令法音宣流とハ如来
法音と宣流して衆生小闻令と欲し多ひてとい義あり。变化所作
とハ阿弥陀佛の佛心变化して衆鳥と所作なりとい義なり

舍利弗彼佛國土微風吹動諸寶行樹及寶羅網出微妙
音譬言如百千種樂同時俱作

舍利弗と又更く説くなり。彼佛國土といふより微妙音といふより
の意ハ彼極樂國ハ微風とて柔小吹風なり。前小説く七重乃行樹
七重乃羅網等ハ吹鳴とハ微妙とて得もいそれぬ妙なる音と説
くるとの義なり。譬言如百千種樂同時俱作とハ譬を百千種乃音
樂と同時俱作が如しとの更なり。樂とハ笛琴琵琶以下の樂

善哉吹鳴と弾鳴とと然り往昔釈迦如来祇園精舍小在す時
舎法園乃城中小五百人の乾闥婆あり。是天の樂と奏と多神あり
が常小諸の樂吹奏と如来と供養しする。其の遠近小知ざる者
なり。時小城の南方小又一入乃乾闥婆あり。名と善愛と云。此人又
巧小音樂を作曾と自深く心小憍慢し。我技小勝る者凡天下小
有とて思所小城の北方小善樂吹作者五百人有と云。甚ど妬
心生と自已琴と携り。國王波斯匿王小見ハ北方五百の乾闥婆と
樂吹揃んと及望む。波斯匿王サレハ彼憍慢の心十分満とを
り。北方の乾闥婆負ると云。彼益自負して北方の者と侮なり。已
已負ると云。瞋怒と闘争小及と云。不如釈尊小告と云。如来の方便小

任余之積金以如來示此事之生多不執尊弟之心思
尚其者之此稱金伴以皇不宣示國王恨即退南
方乃善愛亦向北名乾闥婆皆祇園積金亦在彼所
樂之擁もと中氣の善愛坐して波斯匿王亦得て祇園積金亦
到其時執尊大神通を以て人の乾闥婆王亦作の樂神
乃眷族般遮尸棄とい者亦瑠璃の瑟を持せし後復之出之
善愛亦對面する國王善愛亦向於彼先樂を調ふ令せしむるを
善愛亦不怠して瑟之鼓する其音色微妙して聽者醉るが
如くあつて感して善愛意氣揚るる瑟之止久次亦執る後者
亦持せし瑟を採る一曲を彈く亦其音雅亮清徹して聽人

心耳が澄んで歡喜愛樂の發生し感涙を流さるる者善
愛も此妙音の空しくも憍慢の心霜の如く河巴の瑟の音の遙
小なるが慚愧し以後師又之仰せしと禮拜し其時執る本
相還るの善愛も為亦偈て絶るの善愛無信心肝亦銘遂亦
道果を得るごとく百練抑執尊といふ猶人界を離るる其樂
も善愛の慢心を消せしめ増く況阿陀陀佛の志より生る
所乃微風も鳴響行樹羅網の音も亦百千種の樂音の音
も勝る其身之聞衆生争ふ善心發生せし難有るが極樂國の
莊嚴斯の如く諸鳥の声風の音も亦無比の樂を成り念佛信
心も衆生待結るるを万更を地へ世の管の暇も亦念佛

邊阿僧祇劫とて限かぬあまのこ阿彌陀と名はけななるあまのこ阿僧祇劫と梵語を翻譯とれむす無數といふ事なりあまのこ阿彌陀佛とて無量壽佛と申まのあまのこ

舍利弗阿彌陀佛成佛已來於今十劫

成佛已來於今十劫とハ彼阿彌陀佛わ成佛のよりあまのこ已來今あまのこ於あまのこ

十劫とて限かぬあまのこ事なりとの義あり

又舍利弗彼佛有無量無邊聲聞弟子皆阿羅漢

又舍利弗あまのこ彼佛の有無量あまのこ無邊あまのこ聲聞あまのこ弟子あまのこ皆阿羅漢あまのこ

陀佛ハ無量無邊乃聲聞の弟子とてあり其弟子ハ皆阿羅漢あり

となりあまのこ聲聞あまのこハ四諦あまのこのあまのこ脚法あまのことて佛道あまのこの極意あまのこと聞悟あまのこ成あまのこ用あまのこなりあまのこ阿羅

多有との事一生補處とハ皆待覺の菩薩あまのこハあまのこ娑婆の衆生を利

益せんあまのことあまのこ娑婆あまのこ生あまのこと出あまのこるあまのこをあまのこ譬あまのこをあまのこ行あまのこ基あまのこ菩薩あまのこ弘あまのこ法あまのこ大師あまのこ又

ハ法然上人親あまのこ寫あまのこ聖人あまのこ其餘あまのこ乃あまのこ名僧あまのこ皆あまのこ等覺あまのこの菩薩あまのこ乃あまのこ娑婆あまのこの

衆生あまのこ化あまのこ度あまのこ利益あまのこせんあまのことあまのこ化あまのこ身あまのこ去あまのこりあまのこ是あまのこハあまのこ一生あまのことあまのこ補あまのこ處あまのことあまのこ

補あまのこをあまのこ補あまのことあまのこ小あまのこ佛法あまのこのあまのこ欠あまのこるあまのこ處あまのこをあまのこ補あまのこ義あまのこなりあまのこ譬あまのこハあまのこ迦葉あまのこ佛あまのこのあまのこ欠あまのこ

るあまのこ處あまのこハあまのこ秋尊あまのこ世あまのこ出あまのこるあまのこのあまのこ是あまのこハあまのこ我あまのこ補あまのこひあまのこ秋尊あまのこのあまのこ法あまのこ表あまのこ欠あまのこるあまのこ時あまのこ節あまのこ小

と彌勤佛あまのこ世あまのこ出あまのこるあまのこ是あまのこハあまのこ補あまのこひあまのこ斯あまのこのあまのこ次あまのこハあまのこ小佛あまのこ出あまのこ世あまのこのあまのこ廢

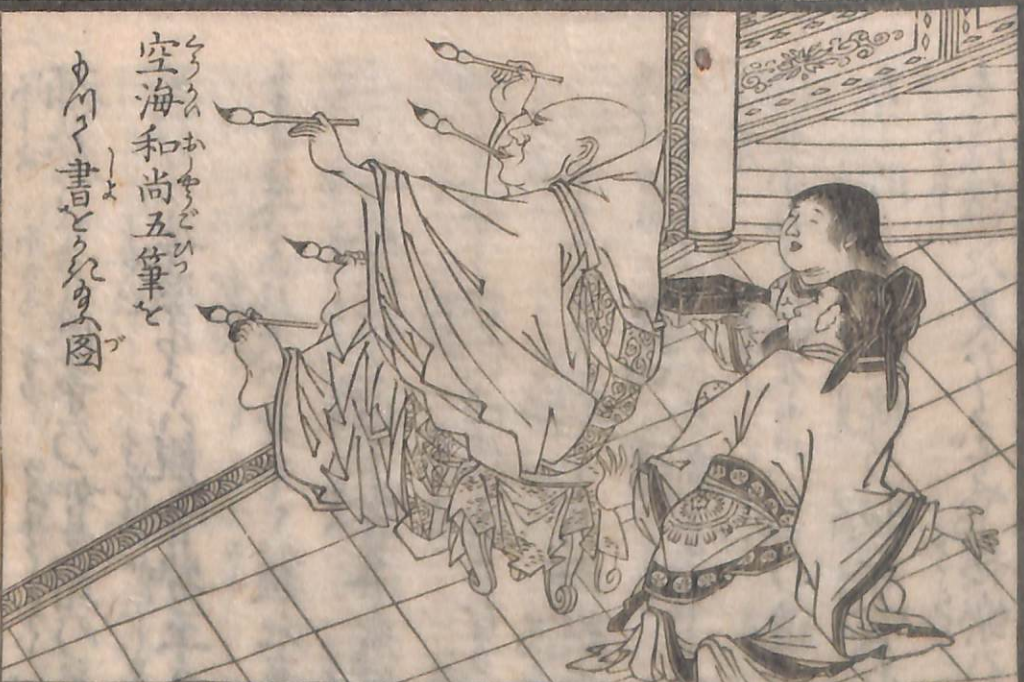
まあまのこるあまのこ故あまのこ興あまのこ一あまのこ補あまのこひあまのこ衆生あまのこ化あまのこ利益あまのこ去あまのこりあまのこ我あまのこ補あまのこ處あまのことあまのこハあまのこ一あまのこ生あまのこ補

處あまのこのあまのこ吾あまのこ菩薩あまのこ乃あまのこ多あまのこれあまのこ事あまのこハあまのこ中あまのこくあまのこ算あまのこ數あまのこ我あまのこ以あまのこてあまのこハあまのこ知あまのこるあまのこことあまのこなり

但あまのこ可以あまのこ無あまのこ量あまのこ無あまのこ邊あまのこ阿あまのこ僧あまのこ祇あまのこ劫あまのこ說あまのこ



但た可以い無量むりやうと云い以下いげ乃なり文意ぶんい
 但た一いつ生せい補ふ处ところの菩薩ぼさつ乃なり數かず中ちゆう々々
 人ひと智ちの算さん數ず亦またハ知ちくハ但た無量むりやう
 無む邊へんあれハ阿あ僧そう祇ぎ劫せきと云いく説せつ
 云いと云いなり。阿あ僧そう祇ぎ劫せきハ前まへ小せう莊じやう世せ
 無む數ずハ佛ぶつの大だい數ずを云いく
 説せつハ説せつ云いと云いなり
 舍しや利り佛ぶつ衆しゆう生せい聞もん者しや應おつ當たう發はつ願げん
 願げん生せい彼か國こく
 衆しゆう生せい聞もん者しやハ沙しゃ婆は婆はの衆しゆう生せい極ごく樂らく

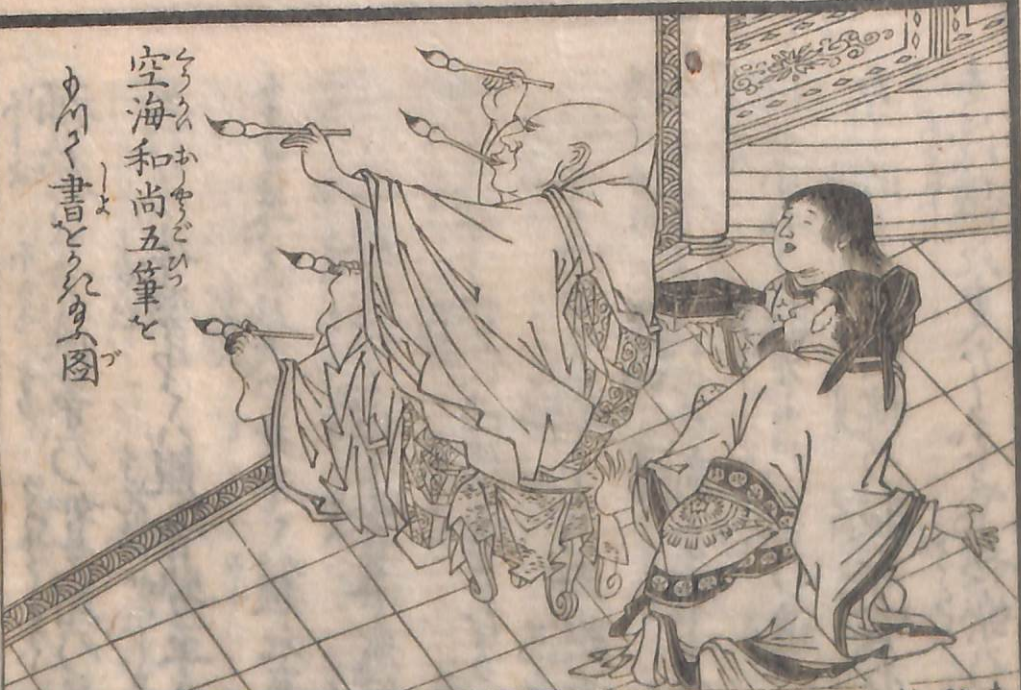


難なん有ゆうと云い衆しゆう生せい聞もん者しやの義ぎ應おつ當たう發はつ願げん
 願げん生せい彼か國こくハ當たう小せう願げんを發はつく
 彼か極ごく樂らく淨じやう土ど生せいハ亦また成じやう願げん應おつと
 乃すなはち脚せつ説せつ法ぽうなり
 所以しゆい者しや何なにと云い所以しゆい者しや何なにと云いの義ぎハ
 次つぎの文ぶん成じやう説せつ起きと云い辭ことばなり。得とく與よ如に
 是ぜ諸しよ善ぜん人じん俱く會わい一いつ處ところハ極ごく樂らく國こく
 往じやう生せいと云いれハ聲せい聞もんの弟てい子しハ又また一いつ生せい

空海和尚五筆と
 云々書と云々図



但たゞ可以い無量むりやうと云い以下いげの文意もんい
 但たゞ一生いっしやう補處ふじよの菩薩ぼさつ乃なほ數かず中ちゆう
 人智にんちの算數さんすう亦また八知はちち之の但無量たゞむりやう
 無邊むへんあれを阿僧祇劫あそうぎげうと云い説とく
 之の阿僧祇劫あそうぎげう前まへの経世きやうせい
 無數むすう之の佛の大數ぶつのだいすうを云い
 説とくを説とく之のと云い
 舍利弗衆生聞者せりふしゆじやうもんじや應當發願とうたうはつがん
 願生彼國がんじやうはいこく
 衆生聞者しゆじやうもんじやと云い沙婆女しゃわにょの衆生しゆじやう極樂ごくらく



空海和尚五筆と
 ゆめと書と云々
 空海和尚五筆と
 ゆめと書と云々

難有がた之の成安じやうあんを云い義ぎ應おう當とう發はつ
 願願生彼國がんがんじやうはいこくと云い當とう願がんを發はつ
 彼極樂淨土はいごくらくじやうど生なまん更さら成じやう願がん應おうと
 乃すなはち説法せつぽうなり
 所以者何しよいしやがと云い所以者何しよいしやがと云い義ぎの
 俱會一處ぐいゑいつじよ
 所以者何しよいしやがと云い所以者何しよいしやがと云い義ぎの
 次つぎの文ぶん成じやう説せつ起きと云い辭ことばなり得與とくよ如ごと
 是諸善人ぜしよぜんじん俱會一處ぐいゑいつじよと云い極樂國ごくらくこく
 往生じやうじやうと云い聲聞しやうもんの弟子でし又また云い一生いっしやう

補處の菩薩等乃如是諸の善人と俱俱一處小會會りて得得ぞよ
 義義かりの娑婆娑婆中中に觀音觀音勢勢至至文珠文珠等の菩薩菩薩之之其正身其正身を拜拜と
 なるなる更更ふ凡夫凡夫の身身中中に難難れ事事かりかり並並小極樂國小極樂國中中に諸諸乃佛善
 薩薩と一處一處小住小住し俱俱小會事會事得得と最最も尊尊れ更更ななららざざややされされむ
 願願を發發し念佛念佛の信者信者となりなり心心阿彌陀佛阿彌陀佛を念念ひひなりなりて極樂
 へへ往生往生させさせむと願願よよし御親御親法法なりなりそれ娑婆娑婆人界人界の交交と面面小
 笑笑を合合とも内内心心小劍劍を磨磨との少少くも適適く中睦中睦く交交り兄弟
 同同並並小小中中朋友朋友中中只只一言一言乃違乃違ひ一更一更の間違の間違り忽忽ち仇敵仇敵の想想を
 かりかり昨日昨日ままに二椀二椀乃飯乃飯を食食ああひひも今日今日毒害毒害の心心をささくくををむ
 と淺淺猿猿れ更更ななららざざや極樂極樂乃交乃交り之佛之佛も衆生衆生も更更小隔小隔なく

親親く交交て爭論爭論とし事勢事勢かりかり有有る國國としとしなり

舍利弗不可以少善根福德因縁得生彼國

此文此文の意意ハ衆生衆生願願を發發し彼極樂彼極樂へ往生往生せんと欲欲とも少少く善根
 や聊聊乃福德乃福德の因縁因縁を以以て中中に彼極樂淨土彼極樂淨土生生ず事事を得得るるに
 少少く善根善根福德福德因縁因縁としとし又又小就小就く種種々々乃師統乃師統ああととも
 迫迫りり念念佛念佛信信せせと唯唯少少く善根善根を施施しし其福德其福德乃因
 縁縁々々乃乃彼國彼國生生ず事事ああぬと極樂極樂往生往生せんと思思ひひ唯唯心心小
 阿彌陀佛阿彌陀佛次頼次頼となり懈怠懈怠なく念念佛念佛を念念ひひ義義なり念念佛念佛乃功
 徳徳を多多善根善根としとし念佛念佛の外外乃善根乃善根を少少善根善根としとしかり
 舍利弗舍利弗若有若有善男子善女人聞説阿彌陀佛執持名號

若者之若者之の事。善男子善女人。念佛淨業乃念のたの善
乃字の意味あり。念佛之心不乱念のたの善男子善女人と
念のたの阿彌陀佛と。阿彌陀佛の功德廣大無邊なる事の念
念を聞てよ義なり。執持名号と。執と執受乃義持。任持の義
名号と阿彌陀佛の念号と申す。此意。善男子善女人の阿彌陀
佛の功德の念を聞其御名号を執持し稱する者有てよ義なり

若一日若二日若三日若四日若五日若六日若七日心不乱

若一日といふ若七日といふも。強ち七日に限らざるも。天竺より
已け七の數を貫ちて七日とせらる。唯日不の意なり。七を
貫ちて已ふ此經も七重の欄楯といふ七重の行樹といふ七寶といふ

七の數を用ひらる。抑七老陽の數中。一氣の循環を言ひ
譬病療治を言ふ。七日と廻り。齋も七日と期。人生
七日過ると七夜といふ。死て七日といふ。此七の數を用
事天竺不限と和漢とも是多し。心不乱と心亂と阿彌陀佛の法
号を執持し日不と稱するは。念佛の功德廣大無邊なる
事。種々例ある中。昔人の大商賈あり。五百人の小商賈を從收
受乃貨物大船を積諸國を廻りて交易を禁。一日洋たる大
海。船を乗出。帆を張。去る所。俄坐して行前。一座の大山
湧出。山の上。三乃日輪暉起。出る。船中の衆人。大に怪見。言ふ
山不忽。巨大なる洞窟あり。海水の流入して。低淺な水なり。

疾し。益發た迫付俣ふよくんれき山
とんそへハ尾の巨魚乃頭むて三輪の
日と月そへハ中あると真乃日論ふて左
右乃二ツと巨魚の眼なり直洞究とん
えハ大魚乃口式張る潮を吞みぞ
有る多其潮つまき船のまると矢
よりも疾く。今平此船太魚乃とあハ
吞まん手。船中の衆人争う周障せざ
らん各色々なり。あハ声を放り啼泣
號哭むるなり。時ハ大高賈と兼て



極樂國土往生するむとなり。それ人間ハ臨終の苦惱せし心顛倒し安
。顛倒の二字ハ顛倒すると刻む。平旦の丈夫なる心も愛着の迷ひと
煩惱乃苦痛あり顛倒惡趣ハ落るなり。是平旦三寤と飯依せ
ざるが友往前と知む。命の終るハ悲し或ハ積貯する財宝を惜む。或
ハ思愛の妻子ハ心ひれ死ても魂魄浮む事能む。業障乃
雲小支らま。終るハ地獄餓鬼畜生乃三惡道ハ墜るなり。念佛
乃信者ハそれと事変る。阿彌陀佛の功力あり諸の苦痛なく
結構なる極樂浄土ハ往生すると思ふ。一心顛倒せむと少し迷ふ
心かたハ小成佛とるなり。されを起ても寐ても平生ハ只念佛を
唱阿彌陀佛と頼むるなり。

舍利弗我見是利故說此言若有衆生聞是說者應
當發願生彼國土

此文乃意ハ前段の意を受テ親尊の眞我是利を見故ハ
此言然說となり此言ハ則ち此阿彌陀經なり若衆生有て此
阿彌陀經然說を聞者ハ應當ハ願を發シ念佛信心シテ彼
極樂國土ハ生よと再び惘ハ勸めらるなり此一段ハ別々ト大事乃
妙文ナレハ等閑ハ皮履ククニさるなり

阿彌陀經和訓圖會中之卷畢



